

新薩南病院に係る病床数の考え方

2020.3.5

1 背景

- 今年度、新薩南病院基本構想を策定。その概要については、先日、説明済。その後、基本計画を策定し、現在、来年度実施予定の設計委託の業者設定に向けて、公募型プロポーザルを実施中。
- 令和4年度中の開院に向けて、来年度は設計、令和3年度から1年半から2年ほどかけて建設工事を行う予定。
- 薩南病院における産婦人科の開設は地域からの強い要望であり、この2月に有馬産婦人科が閉院する等、状況はより切迫しており、対応を急ぐ必要がある。
- 小児科についても、2次医療圏において、西部方面には小児科の入院可能な医療機関がなく、地域からも要望を受けていたもの。また、産婦人科の開設に当たっては、新生児に対応する小児科の開設は必須であり、産婦人科同様、対応を急ぐ必要がある。
- 整形外科については、当院が行った地域住民アンケート調査の結果、小児科に次いで再開を望む声が多く、超高齢社会の中、整形外科単科の医療機関では対応困難な合併症を抱える高齢者等への対応が必要である。

2 病床数について

- 薩南病院は、現在、許可病床より35床少ない140床（うち結核20床）で運用しているが、小児科の休診（H19）、整形外科の休診（H22）等に伴い休床しているもので、両科の再開に伴い、必要になってくる病床と考える。
- 産婦人科は全くの新設であり、2月に閉院した有馬産婦人科が19床で運用していたことを考えると、本来なら、相当数の増床が必要。
- 医療行政の制約の中で、許可病床を超えて増床することは容易ではないことから、上限を許可病床数として、他の医療機関との連携や院内のベッドコントロール等に対応することとしたい。
- 南薩地域においても、急性期が過剰な状況は他地域と同様である。ただし、地域医療構想が示す将来必要とされる病床数には診療科の区別はない。
- 産婦人科や小児科は、地域において将来的にも必要な診療科であり、そのための病床数を確保することは、地域医療構想の目指す方向を阻害するものとは考えない。
- 整形外科の再開については、医師派遣の状況を見極めた上で判断したいと考えており、その結果如何によっては、多少の病床削減は可能であると考えますが、現時点において、その数字を明示することは難しい。
- 一律にベッド数を減らすという議論ではなく、必要とされる診療科とその役割を果たす病院を特定して議論すべきである。